

高等学校のキャリア教育に求められる「社会規範」と「基礎知識」 体験活動を通じた「自己を生かす能力」の育成

所属校：東京都立赤坂高等学校
氏名：山本進
派遣先：東京学芸大学大学院

キーワード：キャリア教育、職業観、勤労観、社会規範、基礎知識、自己を生かす能力

研究の目的

キャリア教育が求められる背景には、若者の職業観、勤労観や社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題がその一つに挙げられる。キャリア教育の代名詞とも言える「職業観、勤労観」はどの程度の重要性をもつのか。

文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」では、キャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア教育を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる」としている。

しかし、職業観、勤労観とは具体的にどんなものであるのか。何を意味するのか。職業や勤労といった広い視野に「観」の意味する〈見方・考え方〉、非常に曖昧なこの「職業観、勤労観」の示す視点をどこに向けるのか。また「職業観、勤労観」をどのようにかわりをもたせるのか。このことは、キャリア教育を進めていく上で重要な意味をもつと考える。

本研究は、将来、生徒一人一人が、社会の一員として生きていくために求められる力を、高等学校のキャリア教育において、どのように身に付けていけばよいのか。キャリア教育に求められる職業観、勤労観を如何に培うか。今日的課題である働くことへの関心・意欲、また責任感等をはじめ、コミュニケーション能力や人間関係の形成、基本的マナー等を考える上で、キャリア教育の基盤となるものに「社会規範」と「基礎知識」を挙げ、これが体験活動を通して「自己を生かす能力」に発展的につながっていくことを検証した。

研究の方法

三村氏は、キャリア教育に取り組むに当たり、価値観を形成することの重要性を述べ、仙崎氏は、自己の価値観を形成するために体験的学習の有効性を述べている。このことから、本研究は、職業に対する生徒の意識調査及び奉仕体験活動を実施し、次の点を考察する。

体験活動を通して、価値観はどのように形成され、

価値観は「職業観」と「勤労観」とどのようにかかわるのか構築モデルを示す。

意識調査の結果から見える生徒に培うべき力、また体験活動から培われた力などの“生徒の力”を明らかにする。

キャリア教育を継続的・実践的な取組にしていくために求められる“教師の力”を示す。

以上の課題を設定し、次のような視点で分析する。

(1) キャリア教育に求められる「職業観、勤労観」

「社会規範」と「基礎知識」を土台に育成され、人間としての在り方、生き方を深め、心を大きくしていくほど、力強く、たくましい、「自己を生かす能力」が育まれることを「自己を生かす能力」の構築モデルを示し定義する。

(2) 国と東京都の動向とキャリア教育の定義の明確化

これまでの動向と都立高校生 968 名の「職業観、勤労観」に関するアンケートから、生徒を育てるために高等学校のキャリア教育に求められるものは何か、キャリア教育の意義を明確にする。

(3) 体験活動を通して見出されたこと

生徒にどのような力が身に付いたのか、体験活動前と後のエゴグラムチェックやアンケートから検証する。

また、「自己を生かす能力」の構築モデルに照らし、価値観はどのように形成されるのか、価値観と「職業観・勤労観」とのかかわりを実証する。さらに、生徒のアンケートからキャリア教育に取り組む際に求められる教師の指導力を見出す。

(4) キャリア教育の実態と課題

平成 19 年度東京都公立学校教諭 10 年経験者研修の受講対象者である、11 年目を迎える 368 名の教諭によるアンケート結果から、学校現場におけるキャリア教育の実態とキャリア教育に対する教師の意識を検証する。また、キャリア教育の課題を明確にする。

(1)から(4)の分析に基づき、学校教育におけるキャリア教育の在り方について再確認し、分析結果と考案を示す。

研究の結果

体験活動等による上記分析から、高等学校における

キャリア教育は、「社会規範」と「基礎知識」を基盤におくことにより、社会性や人間性を高め、働くことへの価値を見出し、将来を生きていくために求められる勤労観、職業観を育成することができることが分かった。この過程を「自己を生かす能力」の構築とし、構築モデルを示した。また、キャリア教育における体験活動は大きな意義を成す取組みであると同時に、「自己を生かす能力」をはぐくむことは、将来、生徒一人一人が、社会の一員として生きていくためにキャリア教育に求められる重要なことであることを明らかにした。

- (1) 活動前の事前アンケート結果から、自身の長所・短所を確認することにより、どんな力を身に付けていかなければならないのかを明確にした。

自己理解をし、自己の目指す姿を意識して活動に取り組むことにより、自ら積極的に励み、また他の者に積極的に声かけを行い、協調性を高めている。自身の能力が「分からない」(12.2%)、「特にない」(10.2%)と応えている割合も高く、自己への気付き、自己の存在感、そして何よりも自信をもたせる機会として有効である。ここに仙崎氏の言う「体験的学習により、自己の価値観を形成する」ことが検証された。

- (2) 多くの生徒の声に「疲れた」「大変だった」「寒かった」とあり、同時に「でも、やってよかった」という笑顔が返ってくる。「責任をもってやらなければならない」「みんな協力してやらなければならない」という、働くことに対して考えさせられていることが分かった。

一人、二人で簡単にできる作業ではない、この奉仕体験活動を通して、互いに言葉をかけ合い助け合いながら、働くことの価値を見出している。奉仕体験活動では、三村氏が言う「職業観、勤労観に共通する、働くことの価値観」とは別に、人間の社会性、人間性から価値観が生まれることを実証した。生徒同士が言葉をかけ合い共同して作業するところの、人間関係の築きやコミュニケーション、友人を思いやって助け合ったり、清掃後のきれいさに嬉しさを感じたり、何よりも「ありがとう」と言ってもらえる喜びによって、生徒一人一人に社会性、人間性がはぐくまれていた。

- (3) 生徒一人一人の活動には、活動を最後までやり遂げようとする責任感があり、そこには「社会規範」と「基礎知識」が基盤としてあることを、生徒の意見の中から見出した。

危険を伴う道具を適切に使用し、集合・開始・終了等の時間を守り、道具をすべて集めるなど、グループや全体の決まりを守ること。そして、物を大切に扱う、人の迷惑になるようなことはしない、困っている人がいれば助けるなど、他の立場になって行動すること。前者は、社会性につながる「社会規範」であり、後者は人間性につながる人として身に付ける「基礎知識」の部分である。「自分にはない部分に気付いた」という意見に代表されるように、多くの生徒が体験活動から、規範の重要性を学んでいた。

考察

- (1) 「自己を生かす能力」の構築モデル

高等学校におけるキャリア教育は、「社会規範」と「基礎知識」を基盤におくことにより、社会性や人間性を高め、働くことへの価値を見出し、将来を生きていくために求められる職業観、勤労観を育成することができるのである。ここに「自己を生かす能力」を育てることができるのである。この意味においても、キャリア教育における体験活動は大きな意義を成す取組みである。社会の一員として生きていく上で、人間としてどのように在るべきか。またどのように生きていくべきか。そこにはルールがある。それは、守るべき人間としての在り方であり、知っておくべき人間の生き方である。これは生きていく人間に共通する規範であり、この規範を守っているから、知っているから、生きることの喜びや悲しみなどを感じていけるのである。このように、人と挨拶を交わし、コミュニケーションをとり、仲間をつくっていく中に、楽しさや喜び、悲しみや怒りを知り、お互いを知る機会が築かれていく。気持ちを確かめ合うかかわりをもって、生きることの価値を身に付けていくことができるのである。

- (2) 価値観の形成と「職業観、勤労観」のかかわり

キャリア教育に求められる「職業観、勤労観」は、このような「規範」と「価値」を多くの経験や体験を通して身に付けていくことにより完成されていくものであると考える。「職業観、勤労観」は、実際に社会人となって働くことにより、その意味を知る。しかし、社会人となってさらに深めていく“自己への挑戦”のためにも、「規範」と「価値」のかかわりは重要なのである。人間としての在り方、生き方を深め、心を大きくしていくほど、力強く、たくましい、「自己を生かす能力」が育まれるのである。「自己を生かす能力」は、将来を生きていく「生きる力」の土台になる力なのである。